

<障がいのある方がつくる「まごころ製品」の認知度等について>

【調査の目的】

福岡県では、障がい者施設で働く障がいのある皆さんの収入向上を図るため、障がいのある皆さんがつくる製品や提供するサービスを「まごころ製品」(※1)と名付けて販売促進に取り組んでいます。

しかしながら、「まごころ製品」の認知は進んでおらず、障がいのある皆さんの収入向上に結びついていないことから、皆さんの「まごころ製品」の認知度等についてお聴かせいただき、今後の行政施策の参考とさせていただきたいと思えます。

【活用状況】

アンケート結果を、「まごころ製品」の認知度を向上する施策や、販売機会の提供場所等、効果的に事業を実施するための検討資料として活用します。

(福祉労働部 障がい福祉課)

※1 「まごころ製品」とは

障がいのある皆さんが、まごころを込めてつくる製品や提供するサービスのこと。パンやお菓子、縫製品、木工品などの製品や、清掃や除草、印刷、クリーニングなどのサービスがあります。

<1> 「まごころ製品」という名前を知っていますか。

(n=360 選択は1つのみ)

知っている。	35.8%	(129名)
知らない。	64.2%	(231名)

無回答 0.0% (0名)

<2> 「まごころ製品」を購入(利用)したことがありますか。

(n=360 選択は1つのみ)

購入したことがある。	36.1%	(130名)
購入したことはないが、購入したいと思っている。	50.6%	(182名)
購入したことはないし、購入したいとも思わない。	13.3%	(48名)

無回答 0.0% (0名)

<3> 「まごころ製品」をどこで購入(利用)しましたか。

※ 複数回購入したことがある場合は、購入した回数の多い場所を選んでください。

(回答は、<2>で「購入(利用)したことがある」と答えた方 n=130 選択は2つまで 回答件数=184)

まごころ製品ショップ（県庁地下1階常設ショップ）	6.5%	（12名）
障がい者施設	25.5%	（47名）
道の駅	21.2%	（39名）
デパート、ショッピングモール、スーパー	16.3%	（30名）
県庁舎、市区町村役場	15.2%	（28名）
その他	15.2%	（28名）

無回答 0.0% （0名）

〔その他（抜粋）〕

- ・ 公共施設（市民福祉センター、福祉会館等）
- ・ グリーンコープ等のカタログ販売
- ・ イベント（お祭りでの出店、学校のバザー等）
- ・ 駅に併設されているショップ
- ・ 会社に配布されるカタログや会社への訪問販売
- ・ 市営の観光施設
- ・ オンライン

〈4〉 「まごころ製品」がもっと認知され、購入されるためには、どのような場所で販売すると良いと思いますか。

※ すでに販売されている場所については、販売回数（機会）を増やした方が良いと思う場所を選んでください

（n=360 選択は2つまで 回答件数=586（無効回答32件除く））

インターネット	24.2%	（142名）
道の駅	28.2%	（165名）
デパート、ショッピングモール、スーパー	35.5%	（208名）
県庁舎、市区町村役場	8.5%	（50名）
その他	3.6%	（21名）

無回答 0.0% （0名）

〔その他（抜粋）〕

- ・ イベント（地域の催しやバザー等）
- ・ 駅
- ・ コンビニエンスストア
- ・ 企業や工場内

〈5〉 県では、障がい者施設と共同で、芋焼酎「自立」(※2)を開発し、販売しています。販売本数を増やすために課題と思われることは何だと思えますか。

※2 芋焼酎「自立」とは

障がいのある皆さんがまごころを込めて栽培したさつま芋(ジョイホワイト)を原料に、酒造会社の協力を得て、福岡県と県内8つの障がい者施設が共同で開発した芋焼酎。(720ml 1,457円(税込))



芋焼酎「自立」

(n=360 選択は1つのみ)

ラベルや瓶のデザイン	5.8%	(21名)
購入できる場所が少ない	21.9%	(79名)
価格が高い	8.1%	(29名)
認知度が低い	59.7%	(215名)
その他	4.4%	(16名)

無回答 0.0% (0名)

〔その他(抜粋)〕

- ・商品名に魅力を感じない
- ・ブランドイメージやブランド戦略がない

〈7〉 「まごころ製品」についてこれまでの設問以外に意見がありますか。

(n=360 選択は1つのみ)

ある	23.6%	(85名)
特にない	76.4%	(275名)

無回答 0.0% (0名)

〔「まごころ製品」に対するご意見(要約・抜粋)〕

○ 広報活動について

- ・「まごころ製品」は内容も豊富となり、いろいろなものが作られて販売されている。以前はパンやクッキーの販売が多かったが、今では製品の種類も多くなっているのに、それらの情報があまり入ってこない。広報が不足していると思う。テレビやラジオで紹介されることも良い方法だと思う。
- ・店頭ではどうしても声掛けの不足など、認知拡大に限界を感じるなので、インターネットやチラシなどの方法を強化すべき。
- ・SNS、テレビ、新聞等で紹介すること加えて、タレント、有名人に推薦してもらう

事が効果的と思う。【類似回答ほか1件】

- ・TVやラジオでPRしたら良いと思う。【類似回答ほか4件】
- ・TwitterのプロモーションのようなSNS上の広告にあげることが一番知ってもらいやすいと思う。
- ・障がいのある方がつくる製品に「まごころ製品」という名前があることは知らなかった。各自治体で販売する場合にも、その名前を冠にして販売すると周知されるのではないかと思う。制作する障がい者自身もそのようなネーミングがなされていることを知らないのではないか。
- ・県政だよりや市政だよりで取り上げて欲しい。
- ・民放の福岡県番組やグラフふくおかで、毎月、「まごころ商品」の紹介とどんな障がい者施設が作っているのかを紹介していくべき。
- ・市報ほど予算を掛けず、単色刷りでフリーペーパーのような媒体で、常時製品と季節ものの商品の一つずつ紹介する。
- ・支援の意義もあるが、売り上げの一部が作り手の収入アップにつながることを、もう少しアピールしても良いのではないか。
- ・ネット上に紹介のHPを開き、作品、製品の画像を定期的に掲載して、認知度を高める。HPの存在もアピールする。
- ・以前は子供の検診などで市役所や文化施設によく行っていたので、様々な県の取り組みを知ることができていたが、子供が大きくなると全く県からの発信などを受け取る機会がない。

○ 商品について

- ・メルカリ等でハンドメイドのものが人気なので、マーケットとしては有望だと思う。障がいの程度を考慮する必要があるが、売れ筋の商品をリサーチして、シーズンもののアクセサリやインテリア小物を販売するとどうか。
- ・商品の販売支援だけでなく、新商品開発やマーケティング、ブランド化などより踏み込んだ支援を行政には期待する。障がい者が作ったから購入するのではなく、その商品に魅力があり購入したいと思わせるような支援を期待する。
- ・価格が高いから、購入しづらい。【類似回答ほか4件】
- ・花のような石鹸を作るとか、人力の技術が必要なものか、生活必需品のようなものを作るのがよいと思う。本当に収入改善を考えるならば、「まごころ製品」というカテゴリーが消費者にとって商品を選ぶ理由になるのかということ考えた方がよい。
- ・障がいのある方が作った商品ということに関係なく、よい商品を作ると消費者は購入すると思う。市場に出回っているものより良いものであれば、とりあえず1回購入してみようという気になる。美味しければ人に紹介したり、リピーターになると思う。【類似回答ほか4件】
- ・障がいのある方が作ったものだからと言うのではなく、普通に商品として販売すれば良い。わざわざそれを伝えることは、出来が悪くても仕方がないと言うような感じがして、作っている方に失礼ではないかと思う。制作過程に様々な補助を行うにしても、立派に商品として独り立ちできてこそその支援だと思う。

- ・製品が障がいがある方によって作られた事以外にまず、製品として良いとか、障がいがある方によって作られたからこその特徴とかをもっと宣伝しないと、慈善に頼った商品にしかならないと思う。
- ・量や数を少なくして価格を安くして、お試し品などで認知度を高めてはどうか。
- ・障がいのある方達が作っているというところを売りにする必要はないと思う。そうしなくても十分に製品として成り立っているのでもっと売り方のデザイン性や雰囲気づくりを現代風にすれば興味を持ってくれる人はたくさんいると思う。
- ・新しく商品を開発するとそのコストも商品代金に入れないといけず、どうしても値段が高くなってしまうため、既製品に障がいのある方が携わり、その商品代金に少しだけ値段を上乗せして販売してはどうか。
- ・「まごころ製品であること」を最前面に押されてしまうと、品質は二の次なのかと勘違いされると思うので、品質の良さを押すマーケティングを同時にする方が良いのではないか。

○ 販売について

- ・スーパーの一角に販売出来る場所を提供してもらい、日頃買い物に来るお客さんが見ることができる場所を提供すると、広く知れ渡ると思う。【類似回答ほか5件】
- ・市内のスーパーを含む量販店で見ることがない。【類似回答ほか2件】
- ・不定期でもいいので、イベントを開催して「まごころ製品」を広めてもらえるとよい。
- ・芋焼酎「自立」は試飲イベントを実施すると良いと思う。常設でなくても良いので、ショッピングモールなどでたまに販売するといろんな人に手に取ってもらえそう。
- ・常設販売ではなく、移動販売や期間限定販売も必要。
- ・食品関係を買おうとしても、販売している人数が多く立ち寄りにくさがある。

○ 名称について

- ・「まごころ製品」や芋焼酎「自立」のネーミングは作り手の思いが強く表現されると感じる。もっと買い手が買いやすいネーミングが良いと思う。障がいのある方々がまごころ込めて作った商品であるとうたえぼうたうほど、それを買わない人は悪だと脅迫されている気分になる。純粋に消費者は消費者個人が良いと思う商品を買いたい。
- ・必ず障がい者が作ったと表記しなくてはいけないのか。普通に販売してもいいのと思う。あえて表記することで障がい者を差別しているようにも感じる。良いものだったら書いてあってもなくても買う。
- ・「まごころ製品」という呼称をしない方が良いと思う。

○ その他のご意見

- ・ふるさと納税への返礼品に採用し、認知度の更なる強化。
- ・商品の生産に障がい者とか健常者とか、なんの問題もないと思う。そこにこだわること自体が偏見を生む原因ではないか。良い製品は良い。なので、素晴らしい商品開発をしてもらえば勝手に売れるし、それが認知度のアップになると思う。

- ・障がい者への問題等は後回しの問題にされるが、弱い立場の方々を自立応援することにより、福岡県幸福度が高まると思う。
- ・障がいの重さによると思うが、なかなかまだ世間には障がいをもたれた方がまわりにはいない限り差別してみている傾向があると思う。作った商品をならべるだけではなく、作っている工程を実際にみる機会があればより安心して購入できると思う。
- ・障がいのある人が作る物を販売するときは、その横でフォローをするスタッフが不可欠である。そのフォローをするスタッフにも国からの補助がもっと多く出すようになれば、より良い物作りに発展せず、高収入にはならない。
- ・製作している障がい者の方々との触れ合いの機会や場所が有り、理解を深めることが出来れば良いと思う。
- ・未だ障がい者への偏見は少なくない現状、明るく清潔な障がい者環境を全面に押し出し、障がい者への理解を深めることが重要だと思う。

障がいのある人の収入向上、自立と社会参加の実現を目指して

● ウェブサイトでの販売 (<http://magokoro-pr.com/>)

ウェブサイト「まごころ製品ショップ」では、オンラインで「まごころ製品」を販売しています。クレジットカード決済などの各種決済機能もご利用いただけますので、ご自宅用に、贈り物に、ウェブサイト「まごころ製品ショップ」をご利用ください

まごころ製品ショップ



(問い合わせ)

福岡県福祉労働部障がい福祉課

TEL : 092-643-3264

E-Mail :

shakaisanka@pref.fukuoka.lg.jp

ウェブサイト「まごころ製品」ショップ